

ひょうごのつ
県立兵庫津ミュージアム（仮称）基本計画の概要について

1 基本的な考え方 [本文 p8~11]

【基本理念】

県内外の多くの人が訪れ、交流する
 『ここにしかない歴史を発見し、兵庫ファンを増やす拠点施設』を目指す。

【整備方針】

- (1) 県設置時の歴史空間を体験する「初代県庁復元施設」と県の成り立ち、歴史・文化・産業など県の魅力を理解する「展示施設」を一体的に整備する。
- (2) 兵庫津や兵庫県のガイダンス施設として以下の4つの位置づけを持たせる。
 - ① 歴史資源としての兵庫津のポテンシャルの高さを活かし、**歴史ミュージアム機能を持った県のPR施設**
 - ② 兵庫津や北前船、平清盛や高田屋嘉兵衛などの歴史的人物、産業遺産など、**来館者の多様な興味関心に対応した展示施設**
 - ③ 兵庫津で活動する**地域団体、商業施設や周辺企業、県内博物館・大学等と連携**して事業を行う施設
 - ④ 兵庫県が設置された経緯、五国からなる兵庫県の成り立ちを**県民が振り返り、ふるさとへの誇り、愛着を醸成する施設**

【施設名称】

復元施設と展示施設の一体性を明示するため、**2つの施設を総称した名称を付す。**
 施設全体の名称：**「県立兵庫津ミュージアム（仮称）」**
 復元施設名称：**「初代県庁館（仮称）」**
 展示施設名称：**「ひょうごはじまり館（仮称）」**

2 事業活動計画 [本文 p13~14]

【基本方針】

- ① **重層化した歴史を解きほぐすガイダンスの重視**と行動を促すきっかけづくりの工夫
- ② ストーリー化や映像技術活用など**実物資料のみに頼らない展示手法の重視**
- ③ **様々な関係者との協働体制構築**を目指した**ネットワークの重視**
- ④ これまで地域で積み重ねられてきた知見を活かす**住民参加型の事業運営**
- ⑤ **兵庫津の歴史情報の収集・整理・保存**

事業活動種別	概要
展示・情報発信事業	○兵庫津や兵庫県の歴史文化を伝え興味関心を引き出す ・周辺資源や県内各地に来館者を誘うガイダンス的な展示を導入 ・多様な来館者の様々なニーズに答える展示内容・展示手法の検討 ・可変性、更新性のある展示（自主企画展、持込企画展の実施を含む） ・展示、情報発信のために必要な情報収集とデータベース化
体験・学習事業	○兵庫津や兵庫県の身近に感じるきっかけづくり ・兵庫県の地場産業、伝統芸能の体験を通じ体感できる機会の提供 ・小学4年生の社会科学習の場として活用 ・年表、地図・古地図、書籍など、深い学びを支援する資料設置 ・講演会、講座等の開催、生涯学習事業との連携
企画運営事業	○限られた施設、体制で事業を着実に実施するためのネットワーク構築 ・展示及び情報発信の内容更新等のための情報収集・発信ネットワーク ・体験プログラム提供のための県内各地の団体等とのネットワーク ・兵庫津の歴史文化資源の中心的機能を担うためのネットワーク

※来館者の利便性を高めるカフェやショップスペースも確保

3 展示計画 [本文 p16~24]

【基本方針】

両施設が一体となって兵庫津や兵庫県の歴史文化を伝え、人々の興味関心を引き出すため、「ストーリー性、ドラマ性を重視した展示」「体感できる展示」「視覚・聴覚に訴える展示」「遊びを取り入れた展示」「子どもや外国人など誰にでもわかる展示」を目指す。

【展示構成】

	テーマ① 県の「始まりの地」兵庫津 近代日本の「始まりの地」兵庫	テーマ② 「要の地」兵庫津	テーマ③ 兵庫五国の魅力
常設展示	幕末の混乱期から第三次兵庫県の確立まで、近代兵庫の始まりをドラマ化、ストーリー化して展示 (項目) ・兵庫県誕生 ・地域の広がり ・五国の明治維新	陸海の要衝の地であった兵庫津の時間と空間の流れを「見える化」 (項目) ・千年続く港町 ・兵庫津の人々 ・兵庫津の交流史	五国からなる兵庫の多様性を子どもが遊びながら学べる展示 (項目) ・五国の比較展示 [地勢、気候、人、食、建築、街並、産業など]
企画展示	・県内博物館、団体等との連携による企画展の実施 ・兵庫津を研究する地元団体等の研究成果の活用 など		

4 施設・設備計画 [本文 p26~37]

【基本方針】

- ・初代県庁館(仮称)とひょうごはじまり館(仮称)は**一体の施設として隣接整備**し、兵庫津の歴史的資源の中核としての利用を想定
- ・ひょうごはじまり館(仮称)は、中央卸売市場建物等敷地周辺の巨大スケールと歴史的空間の景観スケールを連続的に繋ぐ役割を果たす位置に配置
- ・**運河プロムナードや周辺地域資源との回遊性を確保**
- ・イオンモール等の利用者や社会科学習の小学生など様々な利用者が利用しやすい空間利用
- ・**施設整備には、五国の自然素材の活用を検討**

【建物の構成と面積】

建物名称	全体面積	各棟・部門別想定面積
初代県庁館（仮称）	約 540 m ²	勤番所 約 200 m ² 同心屋敷(地付同心) 約 164 m ² 同心屋敷(月番同心) 約 50 m ² ×2 船見番小屋 約 50 m ² 門番所 約 20 m ² その他、土蔵や小型構造物
ひょうごはじまり館（仮称）	約 3,400 m ²	展示部門(展示室、収蔵庫等) 約 1,240 m ² 体験・交流部門(研修室、ホール等) 約 970 m ² 管理部門(事務室、機械室等) 約 490 m ² 共有部門(観覧テラス、トイレ、ロッカー等) 約 700 m ²

※初代県庁館（仮称）は、周囲に土塀を設置（土塀の内側の敷地面積は約 2,000 m²）

5 管理運営計画 [本文 p39~42]

【基本的な考え方】

- ・集客施設としての持続性を有する施設運営を行うため、蓄積された知見が受け継がれるしくみを有しつつ、民間のノウハウを活かした効率的な管理運営を行う。
- ・県立博物館や市町・民間博物館をはじめ、地場産業・伝統芸能にかかる県内団体、兵庫津地域の関係者・関係機関等との連携・協働を前提とした事業運営を行う。

【運営形態】

- ・民間ノウハウを活用した施設運営を行うため、**県立民営の運営形態（指定管理者制）導入を検討**
- ・学術性とPR性の両面のバランスがとれた企画運営を行うため、**県立博物館学芸員が展示等の運営に参画する施設の位置づけ、運営手法を検討**

【来館見込者数】

類似施設の実績を踏まえ年間 30 万人と見込む。

【利用料金】

県の博物館料金（一般：常設展示 200 円、特別観覧料 2,000 円以下）を基本として今後検討する。

6 整備スケジュール [本文 p43]

区分		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
初代県庁館 (仮称)	設計	→			
	建設工事		→		
	調度品整備		→		
	開館			○	
ひょうごはじまり館 (仮称)	建物設計	→			
	建設工事		→		
	既存構造物撤去	→			
	展示設計	→			
	展示制作		→		
	開館				◎

[初代県庁館(仮称)パース図]



[整備位置図]



[敷地内のゾーニング]

